

## 児童発達支援評価表(保護者)

公表：令和3年3月12日

児童発達支援事業所 とさっちくらぶ

保護者数 33 回収数 20

回収率 60.6 %

(保護者等の皆様へ)

この児童発達支援評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16	3	1		1) 広くて動きまわるのに十分な場所があります。 2) 危険のないよう十分なスペースが確保できていると思います。 3) 走ったり、飛んだりできるスペースがあるので大丈夫だと思います。 4) 狭いのもっと広くしてほしい。 5) もう少しスペースが広いと良い。 6) 活動内容については十分な時もあれば、もう少し広ければと思う時もある。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	20				1) いつも必ず2人の先生が協力して下さっています。 2) マキ先生がいると子どもの反応が違ってきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	17	3			1) 目で見分けるような表示をいろいろ工夫して使って下さっていて息子も楽しくとり組んでいます。 2) 目で見分けるよう工夫がされていて子ども自身もスムーズに理解できていると思われます。 3) 次の行動がすぐ見分けるようになっていきますし、すごく子どもにとって分かりやすい流れが出来ていると感じ、勉強になります。

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	18	2			<p>1) 床に髪の毛が落ちてることが多いときがある。</p> <p>2) 髪の毛が落ちていてもすぐに拾ってくれて、本児はすぐに髪の毛などが気になるのでとても助かります。</p> <p>3) いつも整理されていてキレイです。</p> <p>4) いつも清潔にされていて心地が良いです。</p> <p>5) いつも丁寧に隅々まで清掃されていて本当に気持ち良い環境です。ありがとうございます。家での環境づくりの参考にさせて頂いています。</p> <p>6) 子供に合わせて学習と遊びを切り替えしてくれるので助かります。</p>
	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*2</u> が作成されているか	20				<p>1) とてもしっかりと専門的な視点で息子の様子を見てくださっています。</p>
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	15	1			<p>1) 息子の成長する様子を見ると支援が効果的なんだなと感じます。</p> <p>2) 子どもの心の状態に応じて毎回工夫して支援して下さっていることを痛感した1年でした。また、先生方が先制間の中で情報や状態を共有して下さっていることも安心できました。</p>
適切な支援の提供	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	18	2			
	8	<u>活動プログラム*3</u> が固定化しないよう工夫されているか	16	2			<p>1) 毎回異なるプログラムを準備してくれているのであきずに楽しんでできているのでありがたいです。</p>
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	7	4	5	4	<p>1) コロナで色々あると思いますが、他の子どもたちと接する機会が少なすぎる。50分終了するとすぐ帰らされることも少し残念。</p> <p>2) まだ幼稚園に通っていないので同い年くらいのお子さんと接する時間はあまりないです。</p> <p>3) 園との交流は少し足りないかなと感じています。親が動きやすいよう指示があってもよいかと思っています。</p> <p>4) 自分の子どもは保育園に通っているので事業所には求めています。</p>

保護者への説明等

10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19			1	1) 契約書を書く際丁寧に教えていただきました。
11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	19			1	
12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	10	5	1	3	1) 声かけの仕方等を相談するとすぐに答えてくれて助かっています。 2) 先生から時折アドバイスをいただいています。 3) 日々の活動を通して、好きな遊びの時間に話し合いはできていると思います。(ペアトレかどうかは？なので書かせて頂きました)
13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	18			1	1) 支援の合間に先生から「これが得意ですね」「今はこのような力をのばしています」と伝えていただいています。
14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	3	2	1	1) 定期的に家庭訪問して下さり、課題や支援目標を共有していただいています。 2) 親自身の未熟さや不安、悩みごとなどいつもやさしく受け止めてくださり、助言頂いて本当に感謝しています。
15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	8	4	6	1) コロナ等で・・・ 2) まだ通いはじめたばかりなので、今後父母の会等あれば参加したいです。 3) 支援があるのか分かりません、今はコロナもありますしね。
16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	16			3	1) いつでも相談して下さいとよく言っただけありがたいです。とても丁寧に対応していただいています。
17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16			3	
18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5	3		11	1) ホームページを見たことがあまりないためわかりません。

	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	17			2	1) 今のところ困ったことはありません。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	10	1	2	6	1) 訓練を実施していると聞いている。 2) まだ通いはじめたところなのでそのような機会はありませんが、訓練のお話は契約の際聞きました。 3) わかりやすい場所に防災具があったり、避難訓練を行った時の様子を掲示物で示していて視覚的で直感的に被災時の自身の対応をシミュレートすることができた。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	8	3	1	7	1) 見たことがないため・・・ 2) まだ私たちはその機会がないですが、なさっていると聞きました。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	19				1) 「お勉強行く！（とさっち）」といつも嬉しそうに言っています。 2) とっても楽しみにしています!! 3) 息子はよく「とさっちくらぶ」といいます。 4) 「今日とさっち？」と聞いてくるほど、通所を楽しみにしています。 5) 親も子どもの心の寄り処の1つとなっています。 6) 保育園より大好きな場所です。 7) 駐車場から玄関までルンルンで歩いています。
	23	事業所の支援に満足しているか	19				1) とっても助かっています。 2) 細やかな配慮と支援がされていて非常に満足しています。 3) 大変満足しています。 4) 誕生日や季節のイベントにプレゼントを用意してくれる心遣いがうれしい。

\*1 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

\*2 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者（児童発達支援センター長）が行います。

\*3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

\*4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。